

東京2020オリンピック・パラリンピック開催日程延期に伴うボランティア参加意向アンケート 調査結果報告書

アンケート調査を実施しましたのでご報告いたします。

1. 目的

本調査（アンケート）は、東京2020オリンピック・パラリンピック（以下「東京2020大会」）の開催日程が新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的流行を受けて1年延期となったことを受け、ボランティアとして活動を希望する学生の進級や卒業など生活環境の変化などにより、活動への参加を改めて検討している学生の参加意向やニーズを的確に把握を目的として実施した。

また、本調査（アンケート）結果は成蹊大学ボランティア支援センターとして、活動を希望する学生に対するボランティア支援やサポート体制の活動の参考資料とする。

2. 調査期間

2020年10月1日～10月9日

3. 調査対象

成蹊大学に在籍する学部生・大学院生（全7843人）

4. 調査方法

成蹊大学学生に向けPORTALサイト「SEIKEIPORTAL」を用いURLを配信。
WEB上で直接フォームに回答。

5. 回収状況

回収数：415票

6. アンケート結果について（サマリー）

今回のアンケートでは、東京2020大会へボランティアとして参加を希望する学生の数を調査し、参加を希望する学生は全体の57%（内、応募済は10%）と、およそ6割を占める結果となった。

ボランティアとして活動を希望する学生うち、92%の学生が1つ以上の「悩んでいること・気になっていること・心配ごと」を回答し、当該学生の全員が大学へ何等かのサポートを求めている。

東京2020大会組織委員会との連携協定を結ぶ大学として、また、ボランティア支援を専門とする附属機関を有する大学として、東京2020大会に関連するボランティア支援のため、支援体制の強化と、より一層の充実化が求められていることが明らかとなった。

7. 添付資料

- ・別添資料1 アンケート集計結果概要レポート

以上

アンケート集計結果 概要レポート

1. 東京 2020 大会の関連ボランティアに応募しましたか(n=415)

● 応募した	42
● 応募していない（応募するつもりもない）	180
● 応募していないがこれからしようと考えている	193



東京 2020 大会の関連ボランティアに「応募した・応募しようと考えている」と回答した学生がおよそ 6 割を占めていることがわかった。

ボランティアの募集時期が入試と重なった 2019 年度入学生や、開催日程の延期により 2020 年度入学生にも活動の可能性が広がったことの影響も大きいと考えられ、この傾向は 2021 年度入学生に対しても同様となる可能性がある。

本設問で「応募するつもりがない」と回答した学生（180 名）を分析したところ、「本センターの情報提供を希望する」と約 40%（66 名）の学生が回答していることから、今後のボランティア募集情報を確認し見極めつつ応募について悩んでいる可能性があると考えられる。

これらの学生も含めると「ボランティアとして活動する可能性がある」学生は 70%を超える。

2. 【設問 1 で「応募した」と回答した者に対して】すでに応募が完了している人のうち「マッチング（ボランティアとして採択）」が成立している活動を教えてください(n=42, 複数回答可)

● 大会ボランティア	18
● 都市ボランティア	24
● 地域ボランティア	1
● 競技ボランティア	1
● その他	3



開催地等の自治体が募集する都市ボランティアの応募先には東京都（および 23 区内）・埼玉県・千葉県があげられた。また、競技ボランティアの 1 件については「アーチェリー」競技へのボランティアが成立しているとの回答があった。

その他では、マッチング結果が未発表若しくは不成立といった状況が寄せられた。

3. 【設問1で「応募した」と回答した者に対して】（現在の状況を踏まえて）オリンピック・パラリンピック関連ボランティアへの参加意向を教えてください(n=42)

■ 活動できる ■ 活動できないかもしれないが悩んでいる ■ 未定



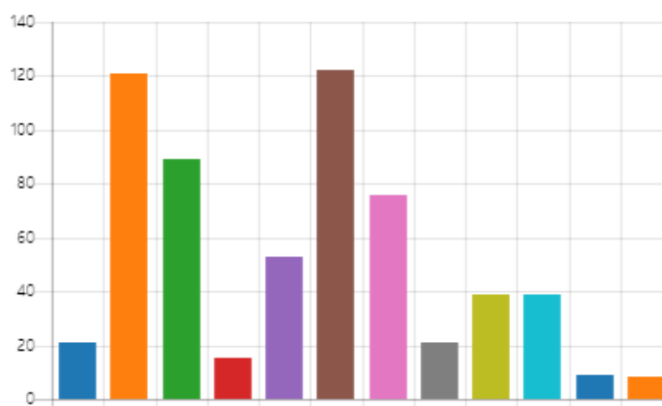
ボランティアへの参加意向について、「悩んでいる」と回答する学生が19名（45%）と最も多く、活動できると答えた学生は17名（41%）、未定が6名（16%）という結果となった。

悩んでいるとえた学生にその理由を問うと、進路や就活の影響がおおよそ7割となり、その他に新型コロナウイルス感染への心配、留学や部活動との兼ね合いなどがあげられた。

一部の学生には、保護者からの反対等を受け、参加辞退を申し出た者もいることがわかった。

4. 1年後の東京2020大会に向けて、ボランティア研修がスタート（再開）します。悩んでいること・気になっていること・心配ごとなどがあればすべて教えてください。(n=235, 複数選択可)

特に悩みや不安はない	21
大会の実施の有無や形態	121
活動中の感染防止対策に関する...	89
卒業による環境の変化	15
進級による生活の変化	53
学業（授業・実習・留学なども含...	122
就職活動やインターンとの両立	76
経済的状況の変化	21
暑さや天候	39
自身のモチベーション	39
転居などによる活動地へのアクセ...	9
その他	8



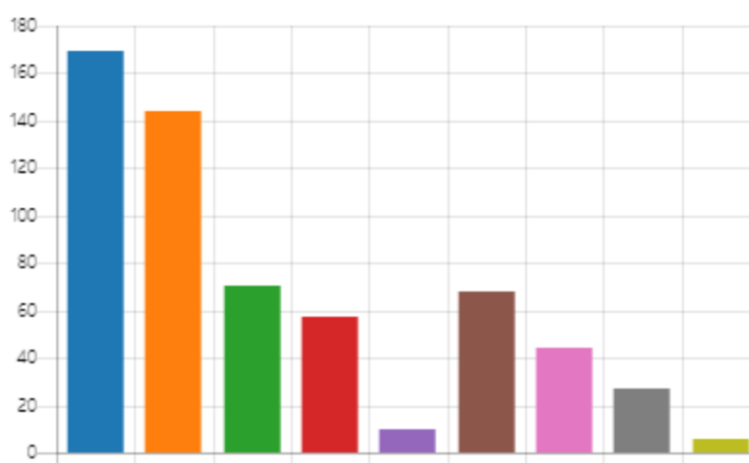
ボランティアとして活動を希望する学生うち、92%の学生が1つ以上の「悩んでいること・気になっていること・心配ごと」があると回答している。またほとんどの回答者が複数を選択しており悩みや不安が複雑化していることが明らかとなった。

その中でも「大会の実施の有無や形態」「学業との両立」については、多くの学生が悩んでいることがわかる。

次の設問「大学から受けたいサポート」の選択肢において「東京2020大会にボランティアとして参加したいので募集情報がほしい」「活動と授業が重なってしまった場合の配慮をしてほしい」に多くの学生が選択し、要望が大きいことと比例しているともいえる。

5. 大学から受けてみたいサポートを教えてください (n=415, 複数回答可)

- 東京 2020 大会にボランティアとして参加したいので募集情報がほしい …169
- 活動と授業が重なってしまった場合の配慮をしてほしい …144
- ボランティアやオリンピック・パラリンピックの情報を配信してほしい …70
- ボランティアに関する研修を受けたい …57
- オリンピック・パラリンピックの歴史やレガシーのを知りたい …10
- おもてなしやコミュニケーション・語学について教えてほしい …68
- 熱中症や新型コロナウイルス対策を知りたい …44
- 事前にボランティアに参加して経験を積みたい …27
- その他 …6



大学から受けてみたいサポート内容として、「東京 2020 大会にボランティアとして参加したいので募集情報がほしい」「活動と授業が重なってしまった場合の配慮をしてほしい」の要望が圧倒的に多く、これらを中心軸に据えたボランティア支援の展開が必要であるといえる。

アンケートに回答した全 415 名のうち 262 名 (63%) は、今後も継続した情報配信が可能となる任意登録制の「成蹊大学東京 2020 大会ボランティアサポート制度」への登録希望もあった (アンケートと同時に登録を希望する学生に対して申し込みができるように設定)。

現段階で応募済みの学生 (本アンケートでは 42 名が応募済みと回答) の 6 倍を超える学生が情報提供を求めており、今後の状況次第では東京 2020 大会において何らかのボランティアに参加する学生が増える可能性を示しているといえる。

6. 回答者の情報

2020 年度入学 学生…260 票 (63%)

2019 年度入学 学生…83 票 (20%)

2018 年度入学 学生…49 票 (12%)

2017 年度入学 学生…21 票 (5%)

それ以外または 2016 年度以前…2 票

以上

【本調査に関する問い合わせ】

成蹊大学ボランティア支援センター (担当: 久米隼)

E-mail : svc@ms.seikei.ac.jp